

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた
基本方針

～ぐるっと感動 まるごと能登！～



令和7年12月

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

【 目 次 】

はじめに	1
○能登半島絶景海道の検討にあたって	1
能登半島絶景海道の概要	2
○能登半島絶景海道とは	2
○対象エリア	3
能登半島の復興に向けた県、市町の復興計画	4
○石川県創造的復興プラン	4
○関連市町の復興計画	4
能登半島絶景海道の特徴	5
○能登半島の地形・地質と地域の方々の営み	5
○能登半島絶景海道周辺の主な観光資源	6
○能登を訪れる観光客の特徴	7
○能登観光の交通手段	8
○能登半島国定公園	9
○世界農業遺産	10
○能登半島絶景海道に含まれる従来からあるルート	11
○いしかわ里山里海サイクリングルート	12
令和6年能登半島地震後の取り組み	13
○能登4市3町の来訪者数が回復傾向	13
○被災による新たな観光資源の誕生	13
○創造的復興に向けた様々な取り組み	14

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた4本柱 20

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」 21

- 1-1. 震災によって出現した新たな資源の活用 21
- 1-2. 観光につながる取り組みの推進 24
- 1-3. 取り組みスケジュール 25
- 1-4. 目指す将来像 26

2. 人が集まる「道の駅」へ 27

- 2-1. 施設の復旧・機能強化と各種サービス機能の拡充 27
- 2-2. 「道の駅」のネットワークを活用した事業の展開 29
- 2-3. 取り組みスケジュール 30
- 2-4. 目指す将来像 31

3. じてんしゃ旅、ふたたび 32

- 3-1. 安全・安心・快適な自転車の走行に向けた環境整備 32
- 3-2. 魅力的なサイクリングエリアの形成 33
- 3-3. 取り組みスケジュール 35
- 3-4. 目指す将来像 36

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ 37

- 4-1. 震災や復興に向けた取り組みを伝える道づくり 37
- 4-2. 地域住民等の多様な主体と連携した取り組みの展開 39
- 4-3. 取り組みスケジュール 40
- 4-4. 目指す将来像 41

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 42

- 開催経緯 42
- 委員名簿 43
- おわりに 43

はじめに

○能登半島絶景海道の検討にあたって

日本海に突き出た能登半島は長い海岸線をもち、三方を囲む海岸線は、長い砂浜が続く千里浜、岩礁海岸が続く「外浦」、リアス式海岸を含む富山湾に面した「内浦」など沿岸の地形や環境は変化に富んでいます。海岸沿いには、半農半漁の集落が点在し、美しい海と集落、棚田や谷地田から形成される「能登の里山里海」は、世界農業遺産に認定され、その景観が高く評価されています。

また、能登半島は過去より地震活動が繰り返された結果、地形の変化を踏まえた人々の営みが数多く続いています。地すべり地形では狭小である農地で効率よく農業を行うため、傾斜地を利用した白米千枚田などの棚田が美しい農村の景色を作り出し、過去に隆起した海岸段丘では、揚げ浜式塩田が伝統的な能登の塩づくりとして受け継がれてきました。能登の美しい景色は、地域の人々の営みによって形成されています。

石川県では令和6年能登半島地震からの創造的復興を目指すため「石川県創造的復興プラン」を令和6年6月に策定（令和7年4月改定）し、単なる現状復旧にとどまらず、地域の魅力・価値を再構築し、能登がこれからも能登らしくあり続けるための取り組みを推進しています。

本検討会では、「観光」「道の駅」「サイクルツーリズム」「風景街道」等の様々な分野において、地域住民、事業者、行政等の多様な主体が連携し、地域全体で創造的復興に向けた取り組みを加速させていくことを目的に、能登の里山里海や観光地が点在する能登半島沿岸部における「能登半島絶景海道」について、創造的復興に向けた基本方針を取りまとめました。

観光は、「移動」「共感」「共有」という三つの要素でできています。国内外の能登を訪れる方々が、そこに息づく文化・風土に触れ、共感し、その体験を他者と共有することで、能登の魅力は全世界に広がっていきます。そして、観光インフラ整備は、地域住民の生活環境を考える拠点的な役割にもなります。

今後、「能登半島絶景海道」が、能登地方の創造的復興のシンボルとなり、震災前よりも魅力ある地域となることを期待しています。

結びに、1日も早く能登半島地震からの創造的復興に向けた取り組みが推進されていくことを願っています。

令和7年12月

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会
委員長 藤生 慎

能登半島絶景海道の概要

○能登半島絶景海道とは

里山里海や観光地、震災遺構が点在する半島沿岸部において、国道 249 号や県道大谷狼煙飯田線などの周遊道路（延長：約 300km）を「能登半島絶景海道」として整備するものです。（石川県創造的復興プランより抜粋）

●英語表記

Noto Grand Scenic Coastal Route

能登半島の壮大かつ素晴らしい景色を感じられる、海岸に沿ったルートであることを表現した、「Noto Grand Scenic Coastal Route」を採用しました。

なお、略称は、能登半島絶景海道のブランドを際立たせる表現として「GRANOTO（グランのと）」を採用しました。

●ロゴマーク

金沢美術工芸大学の学生がデザインした案の中から、一般の皆さまの投票結果を基に、「ぐるっと感動、まるごと能登！」をメッセージに込めたロゴマークを採用しました。

このロゴマークは、能登半島絶景海道全体の一体感を醸成することを目的に、観光、「道の駅」、サイクルツーリズム、風景街道などの取り組みにおける各種イベントチラシ・ポスターのほか、道路標識などにも明示し、能登半島絶景海道の普及・啓発活動に寄与すると認められる場合には、どなたでもご使用いただけます。



ぐるっと感動、まるごと能登！
走るたび、能登の新たな魅力と出会える道

能登半島絶景海道ロゴマーク

○対象エリア

「能登半島絶景海道」は以下の7市町によって形成されます。

・珠洲市 ・輪島市 ・能登町 ・穴水町 ・志賀町 ・七尾市 ・羽咋市



能登半島絶景海道想定エリア（地理院地図をもとに作成）

能登半島の復興に向けた県、市町の復興計画

○石川県創造的復興プラン（令和6年6月策定、令和7年4月改定）

●創造的復興のスローガン

「能登が示す、ふるさとの未来」

能登が持つ自然や文化の普遍的な価値に新たな価値を融合し、全国そして世界から再び注目を集め、理想とされる能登の未来を創り上げることを目指す。

●創造的復興に向けた取り組み（能登半島絶景海道関連箇所抜粋）

【取組】新たな視点に立ったインフラの強靱化

単に直すだけでなく、能登の原風景を守りながら、強くしなやかで使いやすい、経済・社会・環境の面からサステナブルで新たな価値を創造するインフラの実現を目指し、復旧・復興に取り組みます。

◆能登半島絶景海道の整備

里山里海や観光地、震災遺構が点在する半島沿岸部において、国道249号や県道大谷狼煙飯田線などの周遊道路を「能登半島絶景海道」として整備し、道路の強靱化と里山里海との調和を図りながら半島沿岸部の回遊性を向上し、ルート全体の情報発信等を行うことにより、観光資源をつなぎ、能登全域への誘客に努めます。

取組	短期（～R7末）		中期（～R10末）			長期（～R14末）			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
（リーディングプロジェクト） 国道249号など 半島沿岸部を周遊する道路の整備促進									

○関連市町の復興計画

- 珠洲市復興計画（令和7年2月策定）
- 輪島市復興まちづくり計画（令和7年2月策定）
- 能登町復興計画（令和7年2月策定）
- 穴水町復興計画（令和6年12月策定）
- 志賀町復興計画（令和6年7月策定）
- 七尾市戦略的復興プラン（令和7年2月策定）
- 羽咋市復興計画（令和6年8月策定）

能登半島絶景海道の特徴

○能登半島の地形・地質と地域の方々の営み

奥能登は、海拔 300～400m の山地が河川の浸食作用によって各地で谷地形が形成され、沿岸部は海岸段丘が分布しています。

能登半島北部は泥岩層、北東部は流紋岩溶岩や緑色凝灰岩、北西部は主に砂岩・泥岩・礫岩、東部はデイサイト質火砕岩が分布しています。

これらはいずれも日本列島が大陸から分離し日本海ができた約 2,000 万年前に形成された地質構造であり、地殻変動により地表部に露出すると強風化作用により脆弱な土質になるため、能登半島各地では地すべり地形が多数認められます。

また、海底活断層は半島に沿うように東北東～西南西方向に存在しており、この断層が数十万年前から地震とそれに伴う隆起を繰り返すことで現在の能登半島が形成されてきました。

この断層は半島側が盛り上がる逆断層であるため、今回の地震でも奥能登の北の外浦は最大約 4m 隆起した場所がある一方で、南の内浦はわずかな沈降や地震動による埋め立て地の沈下が発生しています。

能登半島は過去よりこのような地震活動が繰り返された結果、外浦の標高が高く内浦に向かって緩やかな傾斜地形となっています。

能登地域では、このような地形地質を踏まえ、過去の自然災害を乗り越えた地域の人々の営み、生業が数多く続いています。

例えば、地すべり地形では狭小である農地で効率よく農業を行うため、傾斜地を利用した棚田“白米千枚田”が美しい農村の景色を作り出し、過去に隆起した海岸段丘では海水を効率的にくみ出し、揚げ浜式塩田が伝統的な能登の塩づくりとして受け継がれてきました。

このような山間部や沿岸部の特徴、これまでの地域の人々の営みによって能登の美しい景色は形成されています。



白米千枚田（輪島市）



「道の駅」すず塩田村（珠洲市）

写真提供：「道の駅」すず塩田村

○能登半島絶景海道周辺の主な観光資源

能登半島絶景海道の周辺は、日本の農村漁村の原風景ともいえる「能登の里山里海」の美しい景観に代表される様々な観光資源を有しています。



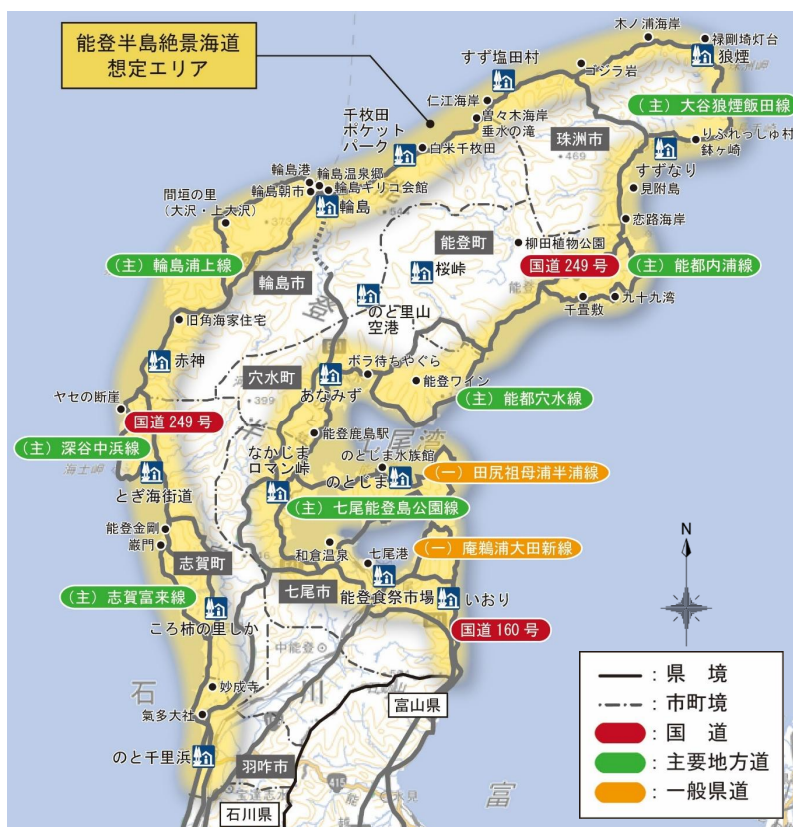
間垣の里 大沢・上大沢（輪島市）



白米千枚田（輪島市）



禄剛埼灯台（珠洲市）



九十九湾（能登町）



ボラ待ちやぐら（穴水町）



ヤセの断崖（志賀町）



妙成寺（羽咋市）



和倉温泉（七尾市）

写真提供：石川県観光連盟

○能登を訪れる観光客の特徴

能登地域※の観光入り込み客数は、北陸新幹線金沢開業等により、平成27年に8,000千人を超えましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年に大きく減少しました。

令和4年以降、能登地域の観光入り込み客数は回復傾向にあります。

また、能登地域を訪れる約半数が県外からの観光客です。一方、観光客の約8割が日帰り観光となっています。

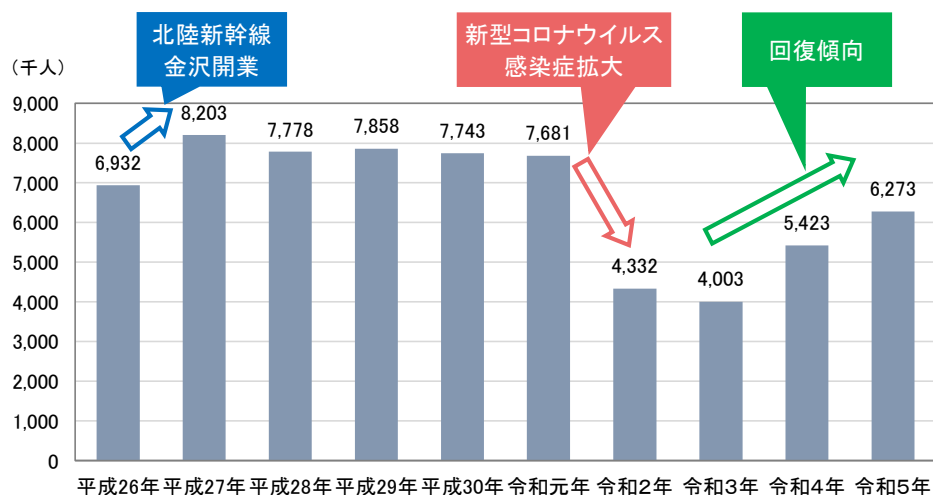


図 能登地域における観光入り込み客数の推移

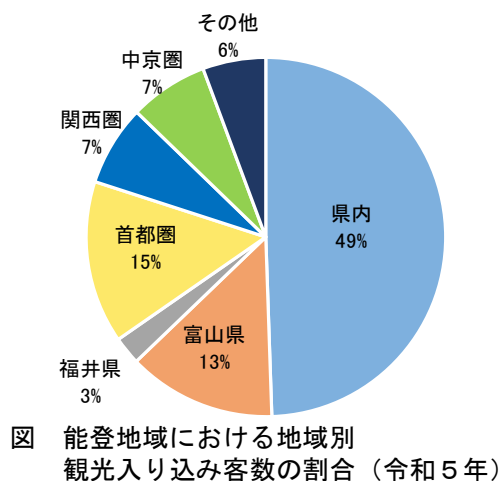


図 能登地域における地域別観光入り込み客数の割合（令和5年）

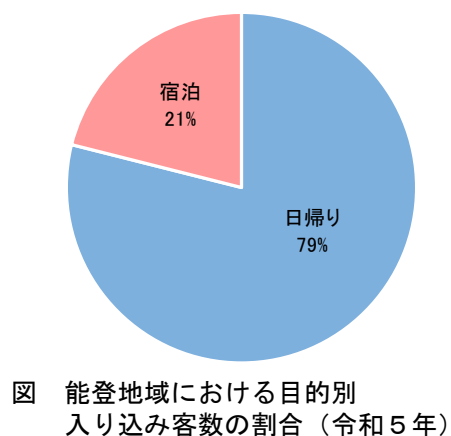


図 能登地域における目的別観光入り込み客数の割合（令和5年）

出典：統計からみた石川県の観光

※「統計からみた石川県の観光」における「能登地域」は、宝達志水町以北（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、志賀町、七尾市、中能登町、羽咋市、宝達市水町）を対象としたものです。

○能登観光の交通手段

能登半島は、国道 249 号とのと里山海道、能越自動車道が車移動の基幹ルートとなっています。

また、JR 七尾線は津幡駅から和倉温泉駅（七尾市）までの約 60km を結び路線であり、金沢と七尾・和倉温泉を結ぶ特急列車「能登かがり火」も運行しており、通勤や観光に利用されています。

のと里山空港は、羽田便が 1 日 2 往復運航しており、関東方面から能登への重要なアクセスとなっています。

一方、震災前、輪島港にはクルーズ船が寄港しており、多くのツアー客が能登半島の観光スポットを訪れていました。現在、再びクルーズ船が入港できるよう、復旧工事が進められています。



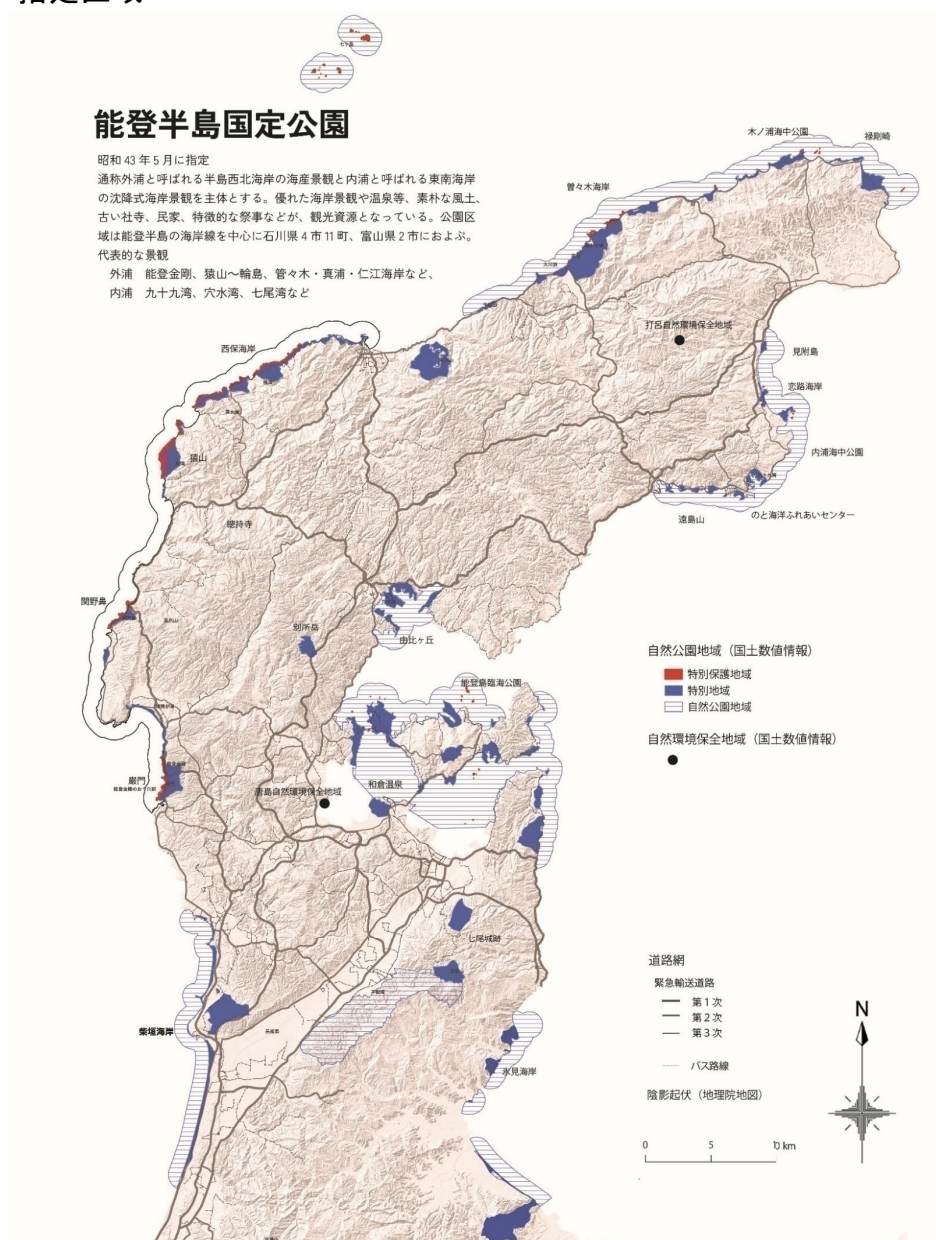
能登半島の主な交通手段（地理院地図をもとに作成）

○能登半島国定公園

能登半島絶景海道の想定エリアは、外浦（日本海側）と内浦（富山湾側）で対照的な景観が楽しめる能登半島国定公園が指定されています。

●能登半島国定公園の概要

- ・ 推定面積：9,672ha
- ・ 指定年月日：1968年5月1日
- ・ 関係自治体：〔石川県〕珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、志賀町、七尾市、中能登町、羽咋市、宝達志水町
〔富山県〕氷見市、高岡市
- ・ 指定区域



区域図

出典：「国土数値情報（自然公園地域・緊急輸送道路・バス路線）」
（国土交通省）を加工して作成

○世界農業遺産

能登半島絶景海道が位置する「能登の里山里海」は、日本で初めて（2011年6月）世界農業遺産※に認定されました。

●構成市町

「能登の里山里海」は以下の9市町によって構成されています。

- ・珠洲市 ・輪島市 ・能登町 ・穴水町 ・志賀町
- ・七尾市 ・中能登町 ・羽咋市 ・宝達志水町

●「能登の里山里海」の特徴

- ・生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用
- ・里山里海に育まれた多様な生物資源
- ・優れた里山景観
- ・伝えていくべき伝統的な技術
- ・長い歴史の中で育まれた農耕にまつわる文化・祭礼
- ・里山里海の利用保全活動



ボウ待ちやぐら



のと鉄道能登鹿島駅



白米千枚田



揚げ浜式製塩



キリコ祭り



輪島塗

写真提供：石川県観光連盟

※世界農業遺産：2002年（平成14年）、食料の安定確保を目指す国際組織「国際連合食糧農業機関」によって開始されたプロジェクトで、その目的は、近代化の中で失われつつあるその土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一体的に維持保全し、次世代へ継承していくことです。

○能登半島絶景海道に含まれる従来からあるルート

●日本風景街道「奥能登絶景海道」

禄剛埼灯台や見附島、垂水の滝などの自然景観や、日本で唯一、珠洲市で受け継がれてきた「揚げ浜式製塩」など、多くの観光資源を有する能登半島の先端部を周遊するルートは、2007年、日本風景街道※「奥能登絶景海道」に指定されています。



「奥能登絶景海道」のルート

※日本風景街道：郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かした美しい国土景観の形成を図り、地域活性化、観光振興に寄与することを目的として、国土交通省がルートを指定するものです。

●いしかわ風景街道「能登地域」

2012年に石川県が指定した“いしかわ風景街道「能登地域」”は、魅力あるいしかわの風景を楽しむ、地域住民と交流できる「おもてなしの道」として整備された道路であり、沿道には「寄り道パーキング」が整備されています。



③木ノ浦（珠洲市）



⑩千畳敷（能登町）



⑫巖門入口（志賀町）



いしかわ風景街道「能登地域」のルート

写真出典：石川の道の駅ガイドマップ

○いしかわ里山里海サイクリングルート

石川県の豊かな里山里海の景観を生かしたサイクリングを推進し、国内外からサイクリストの誘致を図り、サイクリング観光の活性化を図ることを目的として、加賀から能登までの観光地や海岸線をめぐる全7コース(全長約 630km)が設定されています。

サイクリングルートでは、矢羽根型路面表示や案内看板設置等の走行環境の整備、トイレや自転車工具・空気入れなどを貸出するサポート施設の設置等の受入環境の整備が進められています。

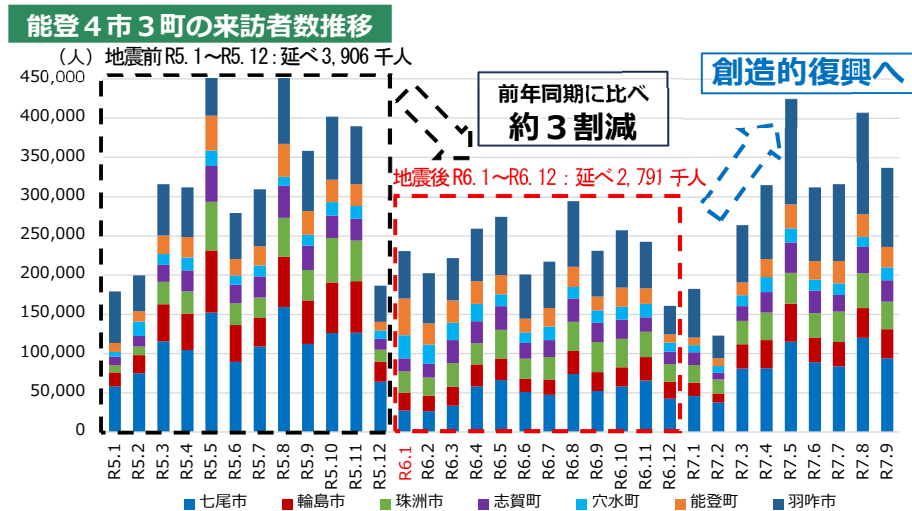


いしかわ里山里海サイクリングルート

令和6年能登半島地震後の取り組み

〇能登4市3町の来訪者数が回復傾向

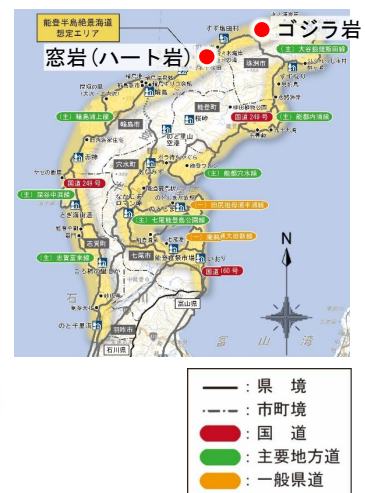
能登4市3町への来訪者は、地震の影響によって、前年比3割減少しましたが、令和7年以降は、徐々に来訪者が回復し、創造的復興に向けた歩みを進めています。



出典：デジタル観光統計オープンデータを加工して作成(R7年10月作成)

〇被災による新たな観光資源の誕生

地震の影響によって、能登半島絶景海道周辺のいくつかの観光資源の風景は変化し、新たな観光資源が誕生しました。



○創造的復興に向けた様々な取り組み

能登半島では、創造的復興に向けた様々なイベントが開催されています。

● ツール・ド・のと400

能登半島地震前は3日間で能登半島を一周するコースで開催されていたツール・ド・のと400は、能登半島地震や奥能登豪雨の影響により、令和7年度は、金沢市から中能登町までのコースで9月14日（日）に開催されました。県内外の参加者に能登半島地震からの復興状況を知ってもらう良い機会となりました。



ツール・ド・のと400

● 奥能登復興サイクル100

令和7年9月15日（月・祝）にツール・ド・のと400 特別企画として、輪島市の輪島キリコ会館を発着点に珠洲市の「道の駅」すず塩田村を折り返す往復約48kmのコースで「奥能登復興サイクル100」が開催されました。奥能登地域での100人規模の自転車イベントは地震後初めてであり、イベント運営は地域住民の連携・協力のもと開催されました。



奥能登復興サイクル100

●富山から石川へ復興応援ライド

令和7年4月20日（日）に「富山湾岸サイクリング 2025」の併催イベントとして、富山県射水市の海王丸パークを発着点に石川県内の七尾市、中能登町、羽咋市を經由する約120kmのコースで「富山から石川へ復興応援ライド」が開催されました。



「富山から石川へ復興応援ライド」の様子

●サイクリング試験走行

令和7年9月20日（土）から28日（日）の延べ6日間において、令和6年能登半島地震や奥能登豪雨からの創造的復興に向け、サイクルツーリズムの推進に取り組むため、試験走行を実施し、ニーズ調査を行いました。試験走行には、延べ217人が参加しました。



サイクリング試験走行の様子

●今しか見られない能登ツアー

能登半島地震が発生してから今日までの奥能登の道の復興について、国道249号（能登半島絶景海道の外浦）を中心にめぐる「今しか見られない能登ツアー」が令和7年8月22日（金）に開催されました。



ツアーの様子

●「道の駅」リレーイベント

能登半島の美しい自然や独特の文化を体験できる絶景スポットや地震による隆起海岸など新たな絶景スポットを県内外にPRし、能登地方に人が集まるよう、新潟県、富山県、石川県内の「道の駅」を対象としたリレーイベントを開催しています。

能登半島絶景海道の魅力を伝えるポスターやメモリアルパーツ※（震災遺物）等の展示を行っています。



「道の駅」リレーイベントの様子



ポスターやメモリアルパーツ（震災遺物）
展示の様子

※メモリアルパーツ：令和6年能登半島地震で被害にあった構造物や姿が変わってしまった名所等を次世代に向けて、災害の記憶や教訓を伝承するために“メモリアルパーツ”として保存します。
メモリアルパーツのうち、被災構造物や隆起海岸等の不動産的な資料を「震災遺構」、被災した案内看板や時間が止まった時計等の動産的な資料を「震災遺物」と定義します。

●（一社）日本ライダーズフォーラムによるイベント

一般社団法人日本ライダーズフォーラムでは、にっぽん応援ツーリング※やSSTR※（サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー）等のイベントが開催され、多くのモーターサイクルライダーが奥能登を訪れ、地域住民との交流を行っています。



地域住民との交流の様子

※にっぽん応援ツーリング：開催期間中に日本全国に散りばめられた各種「応援スポット」を巡って、ポイントを獲得していくツーリングイベントです。

※SSTR：サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリーとは、日の出とともに日本列島の東側の海岸をスタートし、設定された「立ち寄り地点」を巡り、その日の日没までに石川県千里浜なぎさドライブウェイのゴールを目指す日本最大級のツーリングラリーです。

●のとじまトライアスロン大会

能登半島絶景海道の一部である七尾市能登島の「マリリンパーク海族公園」で、令和7年8月24日（日）に「第9回のとじまトライアスロン大会」が開催されました。

「いまアスリートのかで、能登を元気に」のスローガンのもと、自然豊かな七尾湾・能登島の魅力を堪能できるコースに約400名が参加しました。



のとじまトライアスロン大会

写真提供：のとじまトライアスロン大会実行委員会

●能登の「キリコ祭り」の復活

「キリコ」と呼ばれる巨大な御神燈を担ぎ、お御輿のお供をして夜を徹して町を練り歩く能登の各地で繰り広げられる伝統行事であり、2015年に「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」として日本遺産※に認定されました。

能登半島地震の影響で、令和6年度は開催中止や縮小開催となっていた「キリコ祭り」ですが、各地区で祭りの復活や復活に向けた取り組み等が進んでいます。



地震前の祭りの様子

写真提供：石川県観光連盟

※日本遺産：文化庁により認定された、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーのことです。

●出張輪島朝市

日本三大朝市のひとつである「輪島朝市」は、令和6年1月の地震によって大きな被害を受けましたが、令和6年3月以降、「出張輪島朝市」として、ワイプラザ輪島店の敷地内で開催されています。また、全国各地にも、「出張輪島朝市」が開催されています。



出張輪島朝市の様子

写真提供：石川県観光連盟

【参考】

●能登半島地震による「道の駅」での復旧活動

令和6年1月に発生した能登半島地震では、「道の駅」がヘリコプターの離着陸場、防災拠点自動車駐車場、臨時医療施設・電力復旧拠点等の復旧活動の拠点として活用されました。



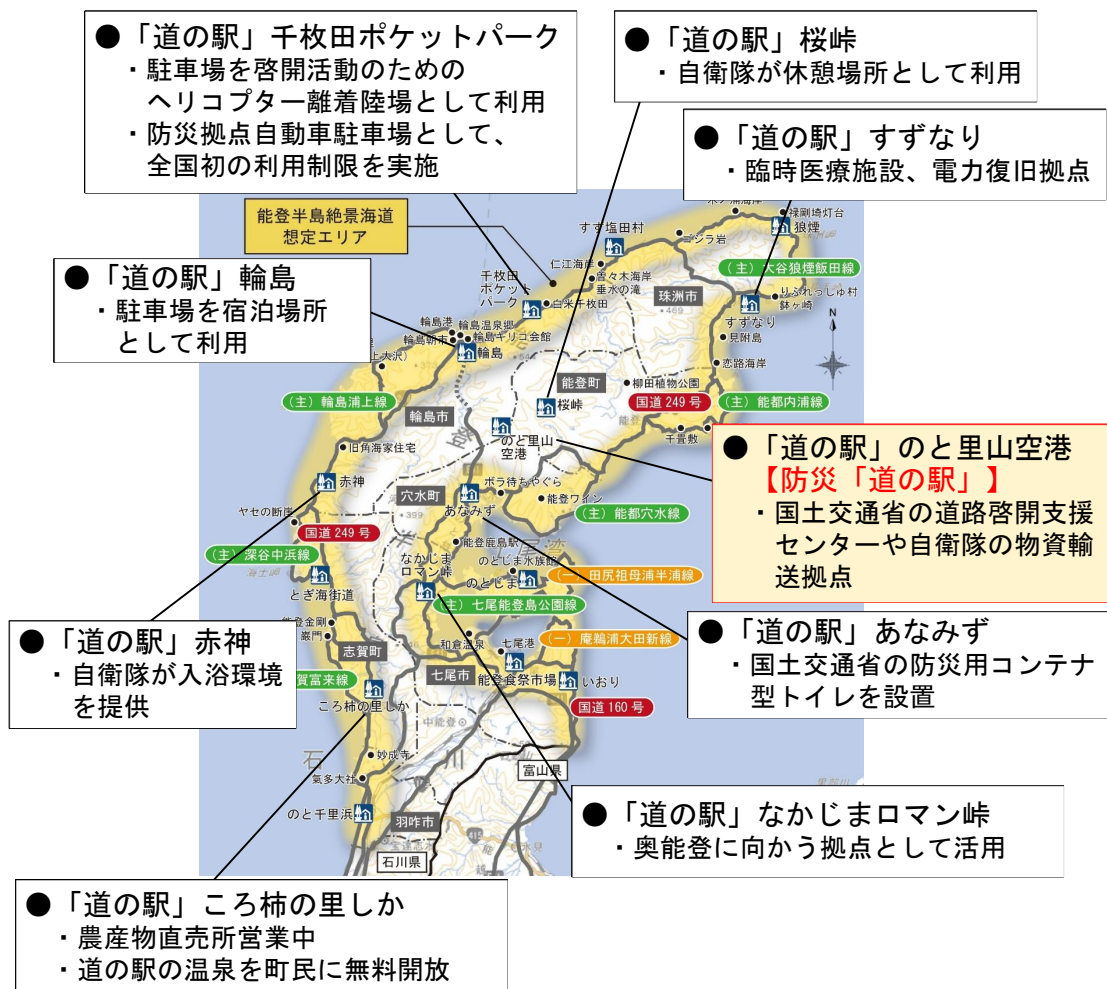
駐車場をヘリポートとして活用
「道の駅」千枚田ポケットパーク



災害対応車両の集結
「道の駅」のと里山空港



防災用コンテナ型トイレ
「道の駅」あなみず



能登半島絶景海道の創造的復興に向けた4本柱

能登半島の復興に向けた関連計画や能登半島絶景海道の特徴、能登の現状を踏まえ、基本的な方針として、下記の4つの柱を設定しました。

これらの柱に基づき、能登半島絶景海道の創造的復興を進めていきます。

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動！」

能登の絶景、豊かな自然、伝統ある祭礼や技術など魅力たっぷりの能登。能登ならではの地理的な特徴を生かし、世界中から能登をゆっくりと堪能してもらう滞在型観光の促進を目指します。

2. 人が集まる「道の駅」へ

旅の目的地から地域づくりの拠点へと進化する「道の駅」。観光拠点としての整備や特産品の販売に加え、地域の賑わいに貢献するサービス提供など、観光客と地域の交流の場をつくります。

3. じてんしゃ旅、ふたび

自転車が快適に走れる環境づくりに加え、震災で縮小したサイクルイベントへの支援を通じて、能登の魅力を国内・海外に発信し、サイクルツーリズムを盛り上げます。

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

能登の旅から人と風景をつなぐ風景街道。魅力ある風景や震災を活用した観光コンテンツの充実などを通じて、地域で活動する様々な団体と交流・関係人口とをつなぐ道づくりを進めます。



国道249号や県道などの能登半島沿岸部を通る道路について、滞在型観光の促進・「道の駅」の集客強化・サイクルツーリズムの活性化・魅力ある風景街道の創出などにより、国内外から人が集まる絶景海道を目指します。

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1-1. 震災によって出現した新たな資源の活用

震災前からの能登ならではの観光資源に加え、震災によって新たに出現した絶景・メモリアルパーツ等を活用し、能登半島の魅力向上と観光の促進に向けた様々な取り組みを推進します。

【取り組み】

ハード面

- 1-1-① 絶景を堪能できるパーキング等の整備
- 1-1-② ドローン構想の支援 等

ソフト面

- 1-1-③ 新たな絶景、メモリアルパーツの発掘
- 1-1-④ 今しか見られない能登ツアー開催支援
- 1-1-⑤ 「能登半島地震を学ぶ旅」開催支援
- 1-1-⑥ 奥能登国際芸術祭への支援
- 1-1-⑦ 地域のニーズに対応した隆起海岸等の新たな活用の検討 等

●取り組みの概要

1-1-① 絶景を堪能できるパーキング等の整備

地震で被災した寄り道パーキングの復旧工事に加えて、新たな絶景スポットや震災遺構について、集客スポットとしての整備を行います。

また、パーキング等は、震災前後の整備背景やストーリー等に配慮したデザインの検討を行います。



新たなパーキング等の整備イメージ

1-1-② ドローン構想の支援

平時における観光分野でのドローンタクシー・空飛ぶクルマ等の取り組みを推進することにより、国内外からのインバウンドを取り込み、交流人口の拡大を図ります。

また、災害発生時における物資輸送等に向けた取り組み（ドローンポートの設置等）を支援します。



大型ドローン

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1-1-③ 新たな絶景、メモリアルパーツの発掘

海岸隆起などで景観が変化した箇所を新たな絶景スポット、姿が変わってしまった名所などはメモリアルパーツとして、能登の新たな魅力の情報発信を行います。

（取り組み例：能登絶景『美岩』の選定）

また、現在、復興工事で使用している建造物を残すことも検討していきます。

メモリアルパーツは、震災前後の状況（ストーリー）等を伝承するために案内看板等の設置を検討するとともに、メモリアルパーツの保存にあたっては、長期保存への配慮を検討していきます。

併せて、地震によって風景が大きく変化した新たな絶景、メモリアルパーツは、震災前と現在の風景を比較できるコンテンツ（AR 技術等）を検討します。

（詳細は次ページ参照）

1-1-④ 今しか見られない能登ツアー開催支援

能登半島地震や奥能登豪雨からの復興状況等を発信するため、復旧道路や能登の観光地をめぐるツアーを開催し、復興状況等をPRしていきます。



ツアーの様子

1-1-⑤ 「能登半島地震を学ぶ旅」開催支援

震災学習などの取り組みと連携し、インフラの被災状況や復旧に関する説明員を派遣するなど、「能登半島地震を学ぶ旅」を支援します。



能登復興事務所職員による説明

1-1-⑥ 奥能登国際芸術祭への支援

能登半島地震により被災した道路の復旧や道路使用許可等、奥能登国際芸術祭への支援を行います。



奥能登国際芸術祭の作品

1-1-⑦ 地域のニーズに対応した隆起海岸等の新たな活用の検討

今後、地域のニーズを踏まえ、隆起海岸の利用に対する許認可相談窓口の一本化等、隆起海岸の利活用に対して支援します。



隆起海岸の活用イメージ

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」



I. 令和6年能登半島地震 メモリアルパーツ（震災遺物）

I-1 粉々に砕けたフィンガー
ジョイント（穴水町）

II. 令和6年奥能登豪雨 メモリアルパーツ（震災遺物）

II-1 崩落土砂により支柱が破断した
トンネル情報板（輪島市）
II-2 崩落土砂により変形した
案内標識板（輪島市）
II-3 崩落土砂により変形した
工事看板（輪島市）

III. 能登絶景『美岩』※

III-1 隆起したゴジラ岩（珠洲市）
III-2 隆起した能登双見岩（珠洲市）
III-3 変化した窓岩（ハート岩）
（輪島市）
III-4 変化した権現岩（トトロ岩）
（輪島市）
III-5 隆起した機具岩（志賀町）

メモリアルパーツ（震災遺物）、新たな絶景 位置図



※能登絶景『美岩』：震災前から絶景として広く知られていた
景観資源や令和6年能登半島地震によっ
て見え方が変化した景観資源を“能登絶
景『美岩』”として選定します。



1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1-2. 観光につながる取り組みの推進

各種イベントの開催等を通じて、能登半島への来訪を促進するとともに、魅力的な観光資源へのアクセス道路の復旧や交通手段・休憩施設の整備、観光情報等の発信力を強化し、来訪者の能登半島への滞在時間の増加を図ります。

また、ニーズに合わせたツアーの提案や多言語化、「GRANOTO（グランのと）」を活用した海外へのプロモーション等への対応を促進します。

【取り組み】

ハード面

1-2-① 「能登半島絶景海道」の復旧・整備

1-2-② 標識、案内看板へのロゴマーク等の記載 等

ソフト面

1-2-③ 石川県観光連盟デジタルマップ等の活用

1-2-④ モデルルートの設定 等

●取り組みの概要

1-2-① 「能登半島絶景海道」の復旧・整備

「能登半島絶景海道」の想定エリアにおける国道 249 号や県道大谷狼煙飯田線などの道路について、周囲の景観と調和した道路の強靱化を図るとともに、観光資源へのアクセス道路も必要に応じて整備を行い、観光促進に向けた道路ネットワーク確保を図ります。

1-2-② 標識、案内看板へのロゴマーク等の記載

能登半島の先端まで来訪者が集まるよう、能登半島絶景海道内の標識や案内看板にロゴマーク等を記載することで、観光資源やルートの適切な誘導を行います。

ロゴマーク等を記載する際は、他施策におけるロゴマークと調整を図った上で、わかりやすい表示方法を検討します。

また、遠方地において、標識や案内看板にロゴマーク等を記載し、能登半島絶景海道へ誘導することを検討します。



標識・案内看板イメージ

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1-2-③ 石川県観光連盟デジタルマップ等の活用

石川県観光連盟公式ホームページ「ほっと石川旅ねっと」で令和6年12月から公開されている「今行ける能登」デジタルマップを活用し、能登の観光スポットの情報発信を行います。また、「ほっと石川旅ねっと」にて設定したモデルルートを紹介や石川県が発信している「石川みち情報ネット」への情報リンク設置を実施します。



観光デジタルマップ
(石川県観光連盟デジタルマップホームページ)

1-2-④ モデルルートの設定

来訪者の年代や移動手段等のターゲットごとにモデルルートを設定し、それぞれの立ち寄りスポットや体験施設、イベントの魅力等の情報発信を行います。

1-3. 取り組みスケジュール

取り組み名	短期		中・長期	想定される実施主体
	R 7	R 8	R 9～	
1-1-① 絶景を堪能できるパーキング等の整備				国・県・市町
1-1-② ドローン構想の支援				国・県・市町 民間
1-1-③ 新たな絶景、メモリアルパーツの発掘				国・県・市町 民間
1-1-④ 今しか見られない能登ツアー開催支援				国・県・市町
1-1-⑤ 「能登半島地震を学ぶ旅」開催支援				国・県・民間
1-1-⑥ 奥能登国際芸術祭への支援				国・県・市町 民間
1-1-⑦ 地域のニーズに対応した隆起海岸等の新たな活用の検討				県・市町
1-2-① 「能登半島絶景海道」の復旧・整備				国・県・市町
1-2-② 標識、案内看板へのロゴマーク等の記載				国・県・市町
1-2-③ 石川県観光連盟デジタルマップ等の活用				県・市町・民間
1-2-④ モデルルートの設定				県・市町・民間

1. 能登の魅力を「ぐるっと感動!」

1-4. 目指す将来像

新たな絶景スポットには、地域の魅力に出会い、震災を振り返ることができるような目的地となる道の駅やパークングを整備し、これらと能登の主要施設には、空飛ぶクルマの拠点として利用できるバーティポートの設置を目指します。

平時は空から絶景を楽しめる観光拠点として、国内外からのインバウンドも取り込み交流人口の拡大を図ります。また、有事の際は、支援物資や住民・観光客の避難経路・物流拠点として活用し、災害に強い能登半島を目指します。



将来像のイメージ

2. 人が集まる「道の駅」へ

2-1. 施設の復旧・機能強化と各種サービス機能の拡充

震災等で被災した「道の駅」の施設復旧や機能強化を推進します。

また、地域のにぎわい創出に寄与するサービス機能の拡充を検討し、魅力的な施設づくりによる交流人口・関係人口の拡大を図ります。

【取り組み】

ハード面

2-1-① 「道の駅」の機能強化

2-1-② サイクリストサポート施設等、サイクリスト等受入環境の整備

2-1-③ モーターサイクルパーキングの拡充等、モーターサイクルライダー受入環境の整備

2-1-④ メモリアルパーツ（震災遺物）の展示 等

●取り組みの概要

2-1-① 「道の駅」の機能強化

「道の駅」第3ステージ※における「道の駅」の地域センター化に向けて、診療所や行政機能など小さな拠点として住民サービスのワンストップ提供のほか、福祉、買い物、燃料供給等の日常サービスの提供に支障が生じないように、これらの機能を「道の駅」に集約することを推進します。

また、「必要な資機材・災害用備蓄の充実や「防災道の駅」以外の防災機能強化」の実現に向けて、非常電源や雨水貯留槽、自立型トイレの整備などの施設の強靱化に加えて、ドローンや自動運転車など、様々な移動のモビリティ・ハブとしての活用・整備を推進します。

その他、観光地や商品案内の多言語化等、訪日外国人観光客への対応を推進します。



モビリティ・ハブイメージ

※「道の駅」第3ステージ：「『地方創生・観光を加速する拠点』へ＋ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献」のコンセプトのもと、各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意のもとで、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速させることです。

2. 人が集まる「道の駅」へ

2-1-② サイクリストサポート施設等、サイクリスト等受入環境の整備

「道の駅」等の施設に、ゲートウェイや休憩施設としてサイクリスト等の受入環境（自転車やサイクルラック、工具、空気入れ等を貸し出す施設、駐輪スペースの拡充等）を整備します。

また、サイクルツーリズム関連情報（立ち寄りスポット、サイクルルート等）の積極的な情報発信を行います。



サポート施設の様子（写真：石川県）

2-1-③ モーターサイクルパーキングの拡充等、モーターサイクルライダー受入環境の整備

「道の駅」等の施設におけるモーターサイクルに配慮したパーキングの拡充を検討するとともに、簡易メンテナンス設備や整備体制、モーターサイクルライダーに配慮した休憩場所等の受入環境を整備し、モーターサイクルツーリズムの推進を図ります。

また、モーターサイクルツーリズム関連情報（立ち寄りスポット、セカンドルート等）の積極的な情報発信を行います。



モーターサイクルライダー
受入環境イメージ



SSTR Cafe
（羽咋市千里浜町）

2-1-④ メモリアルパーツ（震災遺物）の展示

多くの方に被災状況や復興への歩みを伝えるため、集客施設である「道の駅」を中心としたメモリアルパーツ（震災遺物）の展示を検討します。



「道の駅」に隣接する東日本大震災津波伝承館の展示物
（「道の駅」高田松原）

2. 人が集まる「道の駅」へ

2-2. 「道の駅」のネットワークを活用した事業の展開

「道の駅」の交通結節点としての長所を生かし、各地の「道の駅」でイベントを開催するなど、「道の駅」のネットワークを生かした拠点づくりに向けた取り組みを推進します。

【取り組み】

ソフト面

2-2-① 「道の駅」リレーイベント開催

2-2-② 特産物の販路開拓支援 等

●取り組みの概要

2-2-① 「道の駅」リレーイベント開催

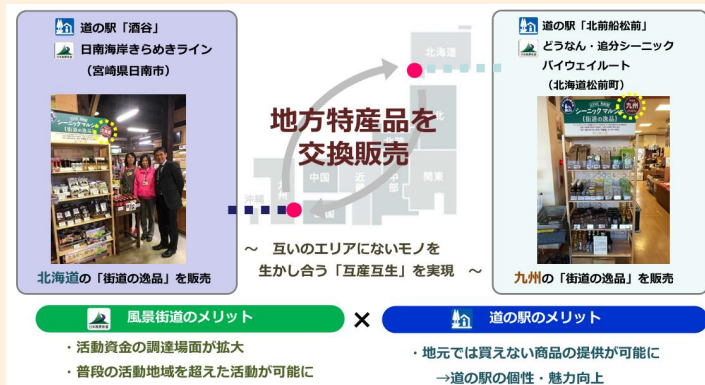
令和6年能登半島地震等による甚大な被害の実情と教訓を伝承するとともに、県内外から奥能登地域に人が集まるよう、被災地に新たな交流を創出し、能登の力強い復興を支援することを目的に、「道の駅」を対象としたリレーイベントを継続していきます。



イベントの様子
（「道の駅」めぐみ白山）

2-2-② 物産品の販路開拓支援







「道の駅」や日本風景街道のネットワークを活用し、民間が行う地方特産物の販路開拓に向けた取り組みを支援します。



特産物の販路開拓イメージ（出典：国土交通省）

2. 人が集まる「道の駅」へ

2-3. 取り組みスケジュール

取り組み名	短期		中・長期 R 9 ~	想定される 実施主体
	R 7	R 8		
2-1-① 「道の駅」の機能強化				国・県・市町
2-1-② サイクリストサポート施設等、 サイクリスト等受入環境の整備				県・市町・民間
2-1-③ モーターサイクルパーキングの拡充等、 モーターサイクルライダー受入環境の整備				国・県・市町 民間
2-1-④ メモリアルパーツ（震災遺物）の展示				国・県・市町 民間
2-2-① 「道の駅」リレーイベント開催				国
2-2-② 特産物の販路開拓支援				国・県・市町 民間

2. 人が集まる「道の駅」へ

2-4. 目指す将来像

震災を含めた地域の歴史や文化に出会える魅力的な道の駅を整備します。また、「AI 多言語観光案内」「AI 地域語り部」「AI 施設管理」など AI 技術を活用し、能登を訪れたすべての方を包み込むようにお迎えする場所として整備を推進します。

自動運転のサービス拠点となる可能性を見据えた整備を推進するほか、車だけでなくバイク、自転車、空飛ぶクルマやドローンなどのあらゆる交通手段の結節点を目指し、地域住民・観光客双方が交流する便利で地域の賑わいを創出するエリアを目指します。



将来像のイメージ

3. じてんしゃ旅、ふたたび

3-1. 安全・安心・快適な自転車の走行に向けた環境整備

自転車の走行環境の整備、サポート施設での受入環境の整備、観光に訪れた方が気軽に自転車を利用できるサービスの充実を図ります。

【取り組み】

ハード面

3-1-① 自転車通行空間の整備

3-1-② サイクリストサポート施設等、サイクリスト等受入環境の整備
(再掲：2-1-②) 等

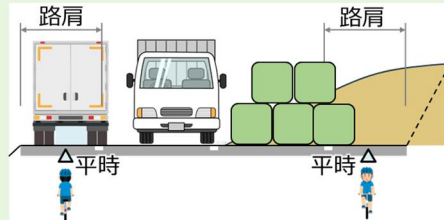
ソフト面

3-1-③ 多言語版ルートマップの作成 等

●取り組みの概要

3-1-① 自転車通行空間の整備

平時は自転車通行空間、災害時には大型車のすれ違いが可能な幅の確保(幅広路肩)や分かりやすい案内表示など、自転車の快適な走行環境の整備を推進します。



幅広路肩の整備イメージ



矢羽根型路面表示
(加賀温泉駅前)



路面表示によるルート案内
(七尾市)

3-1-③ 多言語版ルートマップの作成

外国人利用者への対応や国外への情報発信強化、いしかわ里山里海サイクリングルート of ナショナルサイクルルート指定に向けて、英語に加えて中国語(繁体字)等の多言語版ルートマップを作成します。



いしかわ里山里海サイクリングルート
英語版ルートマップ(写真：石川県)

3-2. 魅力的なサイクリングエリアの形成

震災後、規模の縮小や中止を余儀なくされている“ツール・ド・のと”を代表とする能登地域の各種サイクルスポーツイベントの通常開催に向けた取り組みを推進するとともに、地域の宿泊施設や地域活動団体との取り組み等と連携し、魅力的な滞在環境の創出、サイクリングが楽しめる地域の実現を目指します。

また、いしかわ里山里海サイクリングルートのナショナルサイクルルート指定や自転車の快適な走行環境の整備など、サイクリストに向けた様々な事業を展開し、サイクリストに選ばれる魅力的な能登半島のサイクリング環境整備に取り組みます。

【取り組み】

ソフト面

- 3-2-① サイクルスポーツイベント（ツール・ド・のと等）の支援
- 3-2-② サイクルトレインの支援
- 3-2-③ いしかわ里山里海サイクリングルートのナショナルサイクルルート指定を目指した取り組みの推進
- 3-2-④ モデルコース（難易度、ターゲット別）の設定
- 3-2-⑤ レンタサイクルの推進
- 3-2-⑥ サイクルツーリズムと連携したイベントの開催
- 3-2-⑦ インバウンドに対応したサイクルガイドの育成 等

●取り組みの概要

3-2-① サイクルスポーツイベント（ツール・ド・のと等）の支援

震災後、規模の縮小や中止を余儀なくされている、ツール・ド・のとを代表とする能登地域の各種サイクルスポーツイベントの再開や奥能登復興サイクル 100 のような復興に向けたイベントを通じて、地域との交流等、更なる賑わいに向けて支援します。



ツール・ド・のと 400



奥能登復興サイクル 100

3. じてんしゃ旅、ふたたび

3-2-② サイクルトレインの支援

サイクリングを目的に能登を訪れる方を対象としたサイクルトレインの実施について、鉄道会社の取り組みを支援します。



サイクルトレインイメージ

3-2-③ いしかわ里山里海サイクリングルート of ナショナルサイクルルート指定を目指した取り組みの推進

いしかわ里山里海サイクリングルートについて、基幹ルートの設定や走行環境（自転車通行空間等）、受入環境（サポート施設）の整備等を推進し、ナショナルサイクルルートの指定を目指します。

3-2-④ モデルコース（難易度、ターゲット別）の設定

サイクリストが自分のレベル等に応じたルートを走行できるように、モデルコース（競技として取り組んでいるサイクリスト向けや家族向け等、難易度・ターゲット別、電動アシスト自転車向け等）を設定します。

また、サイクリスト自身でルート走行できるサービス（セルフガイド等）を検討します。

3-2-⑤ レンタサイクルの推進

サイクリストだけでなく、誰でも気軽にサイクリングが楽しめるように、電動アシスト自転車等によるレンタサイクルの普及や展開を検討します。

3-2-⑥ サイクルツーリズムと連携したイベントの開催

能登半島絶景海道を巡るスタンプラリー等や新たな資源を活用したイベントの開催を検討します。













イベントイメージ

3-2-⑦ インバウンドに対応したサイクルガイドの育成

訪日外国人観光客のサイクリスト受入に向けて、海外への情報発信や多言語でのオペレーションができるサイクルガイドの育成を推進し、能登の魅力の海外浸透を図ります。

3. じてんしゃ旅、ふたたび

3-3. 取り組みスケジュール

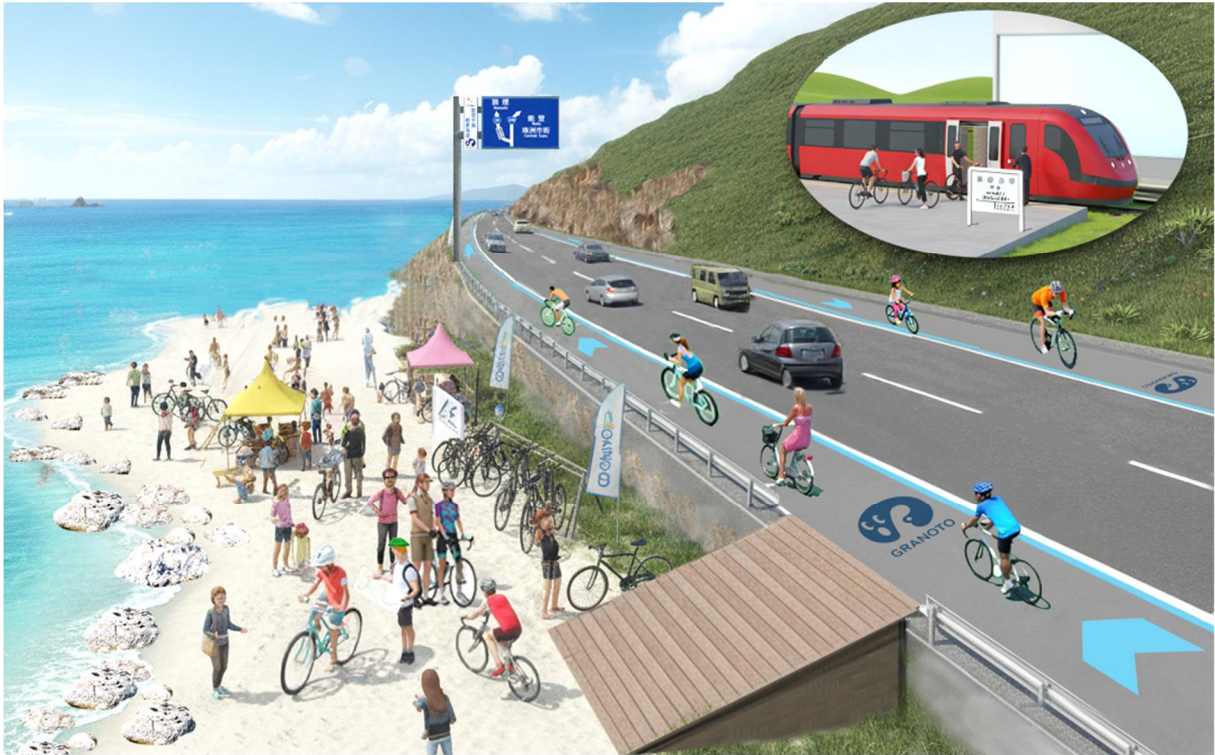
取り組み名	短期		中・長期	想定される実施主体
	R 7	R 8	R 9～	
3-1-① 自転車通行空間の整備				国・県・市町
3-1-② サクリストサポート施設等、 サイクリスト等受入環境の整備(再掲)				県・市町・民間
3-1-③ 多言語版ルートマップの作成				県
3-2-① サクルスポーツイベント (ツール・ド・のと等)の支援				国・県
3-2-② サクルトレインの支援				県
3-2-③ いしかわ里山里海サイクリングルート のナショナルサイクルルート指定を 目指した取り組みの推進※				県・市町
3-2-④ モデルコース(難易度、ターゲット別) の設定				県・市町
3-2-⑤ レンタサイクルの推進				市町・民間
3-2-⑥ サクルツーリズムと連携したイベント の開催				国・県・市町 民間
3-2-⑦ インバウンドに対応したサイクルガイド の育成				県・市町・民間

※「いしかわ里山里海サイクリングルート」のナショナルサイクルルート指定を目指す取り組みは、石川県全体で推進する取り組みであり、参考として記載します。

3. じてんしゃ旅、ふたたび

3-4. 目指す将来像

能登半島絶景海道の沿線を全国でもここで見られない魅力的なサイクリングエリアとして整備を推進します。また、道路空間の再配分により、自動車・自転車双方が安全・快適に走行できる空間を整備します。あわせて、海外エージェント、インフルエンサーの招聘や情報提供・発信を通じて、全世界のサイクルライダーへ、能登の魅力の海外浸透を図ります。



将来像のイメージ

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

4-1. 震災や復興に向けた取り組みを伝える道づくり

震災後も変わらない自然の豊かさ、地盤隆起など震災によって現れた新しい能登半島の風景、メモリアルパーツなど震災の記憶、復興に向けた活動の記録など、ストーリー性のある取り組みを推進します。

【取り組み】

ハード面

- 4-1-① 能登半島国定公園の拡張支援
- 4-1-② 絶景を眺望できるパーキング等の整備（再掲：1-1-①） 等

ソフト面

- 4-1-③ オリジナルグッズの企画・販売
- 4-1-④ 観光ガイド（震災の語り部）等による震災の記憶の伝承
- 4-1-⑤ 「つなげよう絶景海道」クラフトコンテスト開催
- 4-1-⑥ トキをシンボルとした地域活性化の推進
- 4-1-⑦ 能登駅伝復活の支援 等

●取り組みの概要

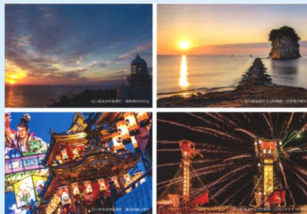
4-1-① 能登半島国定公園の拡張支援

震災によって新たに出現した海岸隆起や新たな絶景を地域資源として、それらの利活用を促進します。

また、能登半島国定公園の拡張などを通じて、能登地域における生物多様性の保全に向けた取り組みを支援します。

4-1-③ オリジナルグッズの企画・販売

能登半島絶景海道の魅力発信や活動資金の確保に向けて「道の駅」と連携して、ロゴマーク等を活用したオリジナルグッズの企画・販売を支援します。



奥能登岬みちづくり協議会によるオリジナルグッズの販売
（写真：奥能登岬みちづくり協議会）

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

4-1-④ 観光ガイド（震災の語り部）等による震災の記憶の伝承

震災遺構の紹介や震災当日この場所で何が起こったのかを伝える案内ガイドの養成や配置、ガイドツアーなど、震災から復興への歩みが感じられる取り組みを支援します。



案内ガイドのイメージ

4-1-⑤ 「つなげよう絶景海道」クラフトコンテスト開催

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨で大きな被害が発生したエリアを対象として、“未来につなぐみちづくり・まちづくり”をテーマに、マイクラフト※に展開したワールドで将来の道や街並みのデザインを募集するコンテストを開催します。



過去の応募作品

※マイクラフトとは、3Dブロックでできたオリジナルのバーチャル空間を自由に探検したり、建築物を建てたりして楽しむゲームで、世界中で楽しまれています。

4-1-⑥ トキをシンボルとした地域活性化の推進

令和8（2026）年度能登地域でのトキ放鳥に向けて、生息環境の整備促進やトキとの共生に向けた社会環境の整備を支援します。

また、トキ放鳥を契機とした地域活性化に向けて、トキツーリズムなど交流人口の拡大に資する取り組みを支援します。

4-1-⑦ 能登駅伝復活の支援

「能登駅伝」とは、能登半島国定公園指定を記念して開催されていたレースであり、第1回（昭和43（1968）年）から第10回大会（昭和52（1977）年）まで開催されました。

能登の魅力を国内外に発信し、県内外の学生に復興の過程を知ってもらい、学生と被災者の皆さんが触れ合う機会を創出し、能登半島絶景海道を活用した記録より記憶に残る「能登駅伝」の復活を支援します。

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

4-2. 地域住民等の多様な主体と連携した取り組みの展開

魅力ある景観や震災の記憶を生かした観光イベントをはじめ、地域で活動する様々な団体が協力し、風景街道による出会いと絆を未来へとつなぐ道づくりを目指します。

また、「道の駅」第3ステージが目指す“「道の駅」を世界ブランドへ”“あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センター”の実現に向けて、「道の駅」を舞台に地域活動団体や民間企業、海外との連携等を推進します。

【取り組み】

ハード面

4-2-① 標識、案内看板へのロゴマーク等の記載（再掲：1-2-②） 等

ソフト面

4-2-② 各種団体との協力体制構築

4-2-③ 復興イベントの開催

4-2-④ ツーリングイベント（にっぽん応援ツーリング、SSTR等）との連携

4-2-⑤ 民間企業との連携による新たな取り組みの推進 等

●取り組みの概要

4-2-② 各種団体との協力体制構築

能登半島絶景海道としての活動の本格化に向けて、活動の担い手および将来の後継者確保、また、日本風景街道の新たなルートとしての登録、訪日外国人観光客への対応等に向けて、能登地方の地域活動団体との協力体制を構築します。

また、地域活動団体の情報発信ツール（デジタルマップ等でのイベント情報の発信等）での案内等を通じて、風景街道の一体感の醸成を図るとともに、風景街道の活動を支援するための道路協力団体制度の活用を検討します。



奥能登岬みちづくり協議会（珠洲市）
活動の様子

（写真：奥能登岬みちづくり協議会）

4-2-③ 復興イベントの開催

サイクリングイベントなど、能登半島絶景海道の魅力を全身で感じられるイベントの企画・開催を地域の団体と連携し推進します。

また、イベント参加をきっかけとして関係人口の拡大に向けた施策を検討します。



富山から石川へ復興応援ライド（開催日：令和7年4月20日）

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

4-2-④ ツーリングイベントとの連携

にっぽん応援ツーリングや SSTR など、能登半島で開催されるツーリングイベントとの連携・協力体制を構築し、イベント参加者から地域へ、地域からイベント参加者へ双方向型の地域との連携を検討します。



地域住民との交流の様子

4-2-⑤ 民間企業との連携による新たな取り組みの推進

民間企業と連携したイベント、ツアー、グッズ、コンテンツ等の新たな取り組みを推進し、能登の復興状況や魅力を県内外に PR していきます。

また、地域で活動できる人材の育成に向けて、民間企業等との連携を推進します。

4-3. 取り組みスケジュール

取り組み名	短期		中・長期 R 9 ~	想定される 実施主体
	R 7	R 8		
4-1-① 能登半島国定公園の拡張支援			<div></div>	県
4-1-② 絶景を眺望できるパーキング等の整備（再掲）			<div></div>	国・県・市町
4-1-③ オリジナルグッズの企画・販売	<div></div>	<div></div>	<div></div>	市町・民間
4-1-④ 観光ガイド（震災の語り部）等による 震災の記憶の伝承		<div></div>	<div></div>	県・市町・民間
4-1-⑤ 「つなげよう絶景海道」クラフトコンテ スト開催	<div></div>	<div></div>	<div></div>	国・県
4-1-⑥ トキをシンボルとした地域活性化の推進		<div></div>	<div></div>	県・市町・民間
4-1-⑦ 能登駅伝復活の支援			<div></div>	県
4-2-① 標識、案内看板へのロゴマーク等の記載（再掲）		<div></div>	<div></div>	国・県・市町
4-2-② 各種団体との協力体制構築	<div></div>	<div></div>	<div></div>	国・県・市町
4-2-③ 復興イベントの開催	<div></div>	<div></div>	<div></div>	県・市町・民間
4-2-④ ツーリングイベント（にっぽん応援 ツーリング、SSTR 等）との連携	<div></div>	<div></div>	<div></div>	国・県・市町 民間
4-2-⑤ 民間企業との連携による新たな取り組み の推進		<div></div>	<div></div>	県・市町・民間

4. 風景街道がつむぐ絆を未来へ

4-4. 目指す将来像

震災を踏まえ、観光地域づくり団体（DMO 等）、スタートアップ企業、ローカル・ゼブラ企業や能登地域で頑張る多様なステークホルダーを巻き込み、魅力的な風景街道を構成していきます。また、震災の記憶を伝承する「語り部観光ガイド」や能登半島絶景海道を活用した「能登駅伝の復活」など、日本風景街道からはじまる地域の「稼ぐ力」を引き出し、これらの取り組みを担う次世代の人材の育成を図り、「みち」を舞台とした持続可能な様々な交流を推進します。



将来像のイメージ

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

○開催経緯

開催日	検討内容
令和7年2月 3日（月）	第1回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 ・ 設立趣意及び規約（案）について ・ 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討 ・ 今後の進め方（案）
令和7年5月16日（金）	第2回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 ・ 規約（案）について ・ 能登地域のニーズと取り組みの方向性 ・ 考えられる取り組み（案） ・ 取り組みスケジュール（案） ・ 今後の予定
令和7年7月31日（木）	第3回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 ・ 創造的復興に向けた取り組み（協議） ・ 新たな取り組みの状況（報告） ・ その他
令和7年10月1日（水）	第4回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 ・ 新たな取り組みの状況 ・ ロゴマークの選定 ・ 基本方針案の意見交換
令和7年12月8日（月）	第5回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 ・ 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針の決定と公表 ・ 石田東生先生講演会「能登半島絶景海道の創造的復興に向けた持続可能な地域づくり」

○委員名簿

(敬称略、順不同)

	氏 名	所属等
委員長	藤生 慎	金沢大学 教授
有識者委員	片桐 由希子	金沢工業大学 准教授
	山中 英生	徳島大学 研究部長
	刀祢 秀一	奥能登岬みちづくり協議会 会長
	臼井 純子	北陸風景街道交流会議 アドバイザー
	竹内 政則	石川県観光連盟 副理事長
行政委員	石川県 土木部 道路建設課 課長	
	石川県 土木部 道路整備課 課長	
	石川県 文化観光スポーツ部 観光戦略課 課長	
	七尾市 建設部 土木課 課長	
	輪島市 建設部 土木課 課長	
	珠洲市 環境建設課 課長	
	羽咋市 産業建設部 部長 兼 地域整備課 課長	
	志賀町 まち整備課 課長	
	穴水町 地域整備課 課長	
	能登町 建設水道課 課長	
	国土交通省 北陸地方整備局 道路部 地域道路調整官	

アドバイザー

氏 名	所属等
石田 東生	NPO法人日本風景街道コミュニティ 代表理事

○おわりに

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会は、令和7年2月から同年12月まで全5回にわたって開催され、有識者委員・行政委員の方々と、より良い復旧・復興にしていくために、滞在型観光、「道の駅」、サイクルツーリズム、風景街道など各施策における方向性や復興に向けた新たな取り組みについて、様々な議論が交わされました。

この基本方針は、検討会での意見や提言をとりまとめたものです。今後、この方針が国・県・市町の復旧・復興を進めるための手引きとなり、民間活動におかれましても参考にさせていただき、地域と行政が協働し、能登地方の新たな光となるような「能登半島絶景海道」として、原形復旧以上の整備を推進していきます。

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針

令和7年12月 作成

発行 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

編集 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会 事務局

石川県 土木部 道路建設課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話番号：076-225-1721（代）

石川県 土木部 道路整備課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話番号：076-225-1727（代）

石川県 奥能登土木総合事務所

〒928-0001 石川県輪島市河井町22部1-1

電話番号：0768-22-0567（代）

石川県 中能登土木総合事務所

〒926-8586 石川県七尾市本府中町ソ27番9

電話番号：0767-52-5100（代）

国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所

〒926-0046 石川県七尾市神明町口12番地2

NTT七尾ビル3階

電話番号：0767-52-4511（代）

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

〒920-8648 石川県金沢市西念4丁目23番5号

電話番号：076-264-8800（代）